あなたは知っていますか 多くの尊い命が失われたことを

「日中戦争で兄を亡くした」という 真庭市在住の女性から提供いただ いた写真です。お兄さん(写真左) は頭部に銃弾を受け21歳の若さで 亡くなったそうです。

あなたは知って 争をしていたことを

特集終戦70年 伝えたい思い

今年は、日中戦争そして太平洋戦争(アジア・太平洋戦争)が終戦し70年を迎えます。大平洋戦争だけでも日本人約310万人が、第二次世界大戦では世界全体で約8千万人もの尊い命が失われるなど、多くの犠牲を出した悲惨な戦争の記憶も時代とともに風化しているのではないでしょうか。しかし、この記憶は決して風化させてはいけません。そのためには何をすればいいのでしょうか。戦争体験者は伝えること、戦争を知らない人は知ることが必要ではないでしょうか。

今回は、戦争を体験された人や遺族会でお世話をしている人、久世中学校の 平和学習、戦争について投稿されたお手紙などを紹介します。

今一度戦争について考えてみませんか。

満州事変から終戦までの日本の戦争の歩み

昭和6年9月18日 (1931年) 昭和8年5月31日

(1933年)

昭和6年9月18日、日本の軍部や勢力拡大をめざす人の中に、満州を中国から切り離して 領有しようとする人が現れ、日本軍(関東軍)は中国奉天の郊外、柳条湖で満州鉄道を爆 破し、これを中国側の行動として出兵。満州全土を占領し満州国を建国。国際連盟は、中 国の訴えを受けて満州事変の調査を行い、満州国の不承認と占領地からの日本軍引き上げ を勧告。この勧告が総会において可決されると、

日本は同8年、国際連盟を脱退。

昭和12年7月7日 (1937年)

昭和16年12月8日

(1941年)

昭和20年8月15日 (1945年)

日本軍は、中国北部を勢力圏にしようと、北 京駐留部隊を増強するなど、中国との対立を 強めていた。昭和12年7月7日と8日、北京 にある盧溝橋という地区で訓練中の日本軍に、 何者からか、数発の銃弾が打ち込まれた事件 があった。これが発端となり、宣戦布告もな いまま日中戦争へと発展していった。



出兵前の記念撮影

昭和14年、第二次世界大戦がヨーロッパで起こる。ドイツ・イタリアと連合国が戦っていたころ、日本は日中戦争のゆきずまりを打開するため、東南アジアに軍をすすめ、中国のアメリカなどとの貿易ルートを断ち、同時に資源を手に入れようと考えていた。昭和15年に日独伊三国同盟を締結。日本はインドシナ南部に軍を進め、東南アジアー帯の資源をねる。 らう態勢をとった。アメリカは日本への石油の輸出を禁止し、インドシナと中国から撤退を要求。日本はアメリカと交渉したが、予定した期間内に話がまとまらず戦争を決意した。昭和16年12月8日、日本軍はマレー半島に上陸するとともに、ハワイの真珠湾を奇襲攻撃した。そして、アメリカ・イギリスに宣戦布告し、太平洋戦争に突入した。

日本が劣勢に陥る中、昭和20年3月10日に東京大空襲があり、同年3月から6月までは沖縄 戦が続いた。同年8月6日には世界初となる原子爆弾が広島に投下され、9日には長崎にも投下された。特に一般市民の多数が犠牲になり、深い傷を残した戦争は同年8月15日、ポッダム宣言の受諾により終戦を迎えた。



昭和初期の戦車



中国大陸での進軍



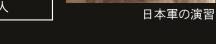
中国大陸に出兵した兵士

国民の動員

昭和13年(1938年)	国家総動員法	政府が戦時下、人と物を統制する権限をもつ
昭和14年(1939年)	国民徴用令	戦時下の強制就労の方法を具体的に決める
昭和18年(1943年)	学徒出陣	これまで免除されていた大学生も徴兵する
昭和19年(1944年)	学徒勤労令	中学生相当年齢以上の全員を強制的に就労させる

太平洋戦争(アジア・太平洋戦争)における日本の戦争犠牲者数

兵員の死亡	一般市民の死亡	総数
約2, 300, 000人	約800,000人	約3, 100, 000人



[※]真庭市の人口48,000人の約64倍もの人が亡くなったことになります

私が体験した忘れられない戦争

戦争を体験した人が多くおられます。今回は少年の時代に軍需工場で空襲を経験した川元 美作男さんと終戦直後の広島で看護婦として被爆者の救護にあたった近藤いしさんにご自身が体験された お話を伺いました。

退し、横浜で働いていたとき

、時中、小学校高等科を中

の話です。働いていたといっ

※一部過激な表現もありますが、事実を伝えるためにお話をそのまま掲載しています。

燃える東京

時の空襲が、東京を焼け野原 たくさんのB29が東京をめが 横浜からも見えました。この た。やがて、たくさんの爆弾 けて飛んでいくのが見えまし 終わって、薄暗いときでした。 が落とされ、燃え上がる東京 空が赤く染まっているのが

にした東京大空襲です。 銃の部品と銃の玉を作ってい 昭和20年3月10日、 職場は軍需工場で、 当時は13歳の少年でし 仕事が れる所もないのに、次から次 辺り一面焼け野原になって隠 っているだけでした。次の日 後には焦げた旋盤の機械が残 は火の海になっていました。 者が続出し、気が付くと辺り い爆発が起こりました。負傷 の燃料倉庫に直撃し、凄まじ 一発が、私の働いていた工場 がけて機銃掃射をしてきま

29が襲い掛かってきました。 火のようでした。そのうちの が無数に投下され、 上空からは火の付いた焼夷弾 いませんが、横浜の街にもB 経ったかはっきりとは覚えて 東京大空襲からどれくらい まるで花

川元美作男さん(月田) 低空飛行で撃ってくるんで た。なんとか間一髪で助かり に隠れるのが精いっぱいでし きれず、焼け焦げた機械の下 す。私は防空壕の中にも入り がすぐそこに見えるくらいに ってしまいました。 ましたが、一緒に働いていた 、も何人かそのときに亡くな 戦闘機に乗っている人

教育の恐ろしさ

く方向がはすべて東京湾に向 られていました。撃墜される ち向かいましたが、 かって落ちていました。多分、 日本軍の戦闘機は、 団地に墜落しないように教育 多くの日本軍の戦闘機も立 落ちて行 すぐにや



工場も焼けてしまい、

のを覚えています。

思います。 は、今となっては恐ろしいと 思うこともありませんでした 軍隊に入っていました。それ その当時はみんな死ぬ覚悟で されていたんだと思います。 を惜しまない教育というも が、死ぬことが怖くない、 が当たり前だと思い、疑問に

月田に帰郷

たり、 ける練習をしたりしていまし 今の勝山中学校の場所にあ た。とても教官が厳しかった って敵の戦車が上を通るとき 決戦に向けて、竹やりで突い ためにイモを作ったり、 通っていました。食糧増産の た青年学校に月田から歩いて てきました。帰ってからは に棒の先についた地雷をぶつ その後、 穴を掘って、そこに入 4月に月田 本土

戦争のことをもっと 知ってもらいたい



変です。二度と戦争は繰り返 動してほしいと思います。戦 のではなく、自分で考えて行 と思います。誰かに言われる てはいけません。 政治に関心を持ってほしい 殺しても殺されても大



これがこの世の 地獄だと思いました



近藤いしさん(社)

終戦直後被爆地広鳥

聞こえませんでしたが、日本 療養所の看護婦として、 してもその時には広島の惨状 護婦長、看護婦が私を含め5 ました。それから事務官と看 れる陛下の声は、はっきりと きました。とぎれとぎれに流 指示があり療養所で放送を聞 あるので、全員聞くようにと ど8月15日、終戦の日でした。 地広島へ救護のため出勤命令 午前0時頃だったので、到着 発して、広島に到着したのが ました。午後1時に岡山を出 が無条件降伏したことは分り 正午に天皇陛下の重大放送が が出ました。その日はちょう 人、総勢7人で広島へ向かい 16歳の時に岡山国立

> ず、8月の暑さと悪臭、あち も治療を受けることもでき 10日過ぎていましたが、1度 して使っていました。 ん。着古した浴衣をガーゼの な薬も衛生材料もありませ 状態でした。救護するといっ こちからうめき声が聞こえる ていました。爆弾が落とされ、 な患者さんが何人も寝かされ か分らない、髪の毛と皮膚が 焼け爛れ、目も鼻も耳もどこ 堂のような場所で、真っ黒に 大きさに切って、それを消毒 緒に垂れ下がっているよう 8月16日に入ってからで 爆者の救護を始めたの 傷の手当てをする十分

番辛かった治療

年は40歳くらいの女性だっを見てみると、左の肩甲骨のを見てみると、左の肩甲骨のたんです。その人の呼吸に合たんです。その人の呼吸に合わせ、肺が動いているのが見わせ、肺が動いているのが見わせ、肺が動いているのが見の周りにはウジ虫が何十匹もの周りにはウジ虫が何十匹もの周りにはウジ虫が何十匹もの周りにはウジ虫が何十匹も

は見えませんでした。

どの人が亡くなってしまいま ら、治療の甲斐もなくほとん 当てを続けました。残念なが の地獄だと涙を流しながら手 気休めの治療を終えて横にな ピンセットで一匹ずつ泣きな けましたが取れません。私は 根油をかけて火葬にされてい した。亡くなった人は、河原 っていました。これがこの世 女性を見ると、すでに亡くな ってもらいましたが、少しの ましたが、とてもむなしく、 ら頑張りましょうね」と答え か」と尋ねられ、「治りますか がら取りました。その女性に に運ばれて積み上げられ、松 悲しい気持ちになりました。 「看護婦さん、私は治ります 別の人の治療をしてその

遠症の苦しみ

日毎日、白湯だけで過ごしま社し、実家に帰りました。11社し、実家に帰りました。11年のまりません。ただ寝ているしかありません。ただ寝ているしかありませんでした。終戦直後で、医者のました。11年日、白湯だけで過ごしまいます。11年日、白湯だけで過ごしまいます。11年日、白湯だけで過ごしませんでした。食欲もなく、医者はいると思います。11年日、白湯だけで過ごしませんでした。11年日、白湯だけで過ごしませんでした。2月頃からによります。

した。2カ月ほどでようやく とこ。 母は、この子はもう助かた。母は、この子はもう助からない。死んでしまうと思ったようです。その時は分りまたようです。その時は分りまたようです。その後、被ば さと思います。その後、被ば だと思います。その後、被ば だと思います。その後、被ば だと思います。その後、被ば だと思います。その後、被ば だと思います。その後、被ば だと思います。その後、被ば だと思います。その後、被ば だと思います。その後、被ば した。

ウジ虫を取ろうと食塩水をか

平和に暮らしていくために

活ができると思います。かて生活すれば、心豊かな生かできます。みんなで助け合なくても、情で支え合うことなくても、情で支え合うことなくても、情ができる人間関係を作ち、信頼できると思います。何も



戦争を風化させない活動のいま

市内には戦没者の遺族で組織されている真庭市遺族会連合会(会長:浅野實さん)があり、 単位でそれぞれ戦没者の慰霊祭などが行われています。(平成27年度1,417人が加入)今回は旧久世町の時か ら長年遺族会のお世話をされている折尾卓治さんに遺族会についての思いなどお話を伺いました。

ればいけませんでした。 い農家の手伝い、松根油を採 学生も労働力として食糧増 兵士が出ると、久世駅まで見 こしなど、勤労奉仕をしなけ るための松の切り株の掘り起 のための開墾、 が届いたとき、 送りに行っていました。 -生でした。戦争が激化する 昭和20年、父の戦死の公報 物資は無くなり、 私は小学校 働き手のいな

遺族会の役割

減ってきています。

た都会で犠牲になった方々の 方々のこと、焼け野原になっ はいけないと思っています。 いう言葉でひとくくりにして を風化させない役割がありま 遺族会には、戦争の悲惨さ 私は戦争を「悲惨」と 原爆投下とその後の

平和が永く続くことを願う

前に永く続くことが幸せで 私は、平凡な日常が当た 和とは何かと考えると

としての活動はありません

会長である現在に至っていま らお話をいただき久世支部

真庭市遺族会連合会全体

道族会の活動の現状

母が亡くなってから、

会か

した。 高齢化が進み参加者も次第に て香華を手向けていますが、 ある忠魂碑の清掃をしたりし にお参りに行ったり、 霊祭を交互に毎年行っていま 戦後50年まで仏式と神式の慰 ています。久世支部の場合は ぞれ戦没者の慰霊祭を踏襲し 合併前の町村単位でそれ 今は岡山県の護国神社 宮芝に

真庭市遺族会連合会久世支部 が **折尾卓治**さん(久世)

再び戦争が起きない ことを願います

争では、 なければなりません。 かせて、私たちは考えていか なことが起こるか想像力を働 使われました。戦争とはどん を焼いて枯葉剤をまくという で出来ているから燃やし、 になります。 けではなく、 トナムでは、ジャングルに手 般市民に影響がある戦術が 日本の住宅は木と紙 軍隊同士の衝突だ 例えば、 般市民も犠 先の戦

久世町戦没者名簿の碑(久世)

けないと思っています。 ことを伝えていかなければ 惨なことなのです。こういう 貴金属類を出しました。 戦争 といってお寺の鐘や鉄製品、 の物資が配給制となり、 るものもほとんどなく、 上げられることが多いのが現 体的な事柄ひとつひとつが悲 に耐えていたんです。この具 被害がなかった田舎でも食べ ことが悲惨なこととして取 色の中、日本中が耐乏生活 難しい時代になっています。 戦没者の遺族で組織されてい しかし、 遺族会は、 あり平和なんだと思います。 ます。戦後70年間、戦死する いいのでしょうか。遺族会は、 会員は増えたほうが 会そのものの存続が 高齢化により会員

平和が永く続くことを願って ない努力を続けるとともに、 族会として、戦争を風化させ あることに感謝しながら、 争の犠牲のうえで今の平和 りますが、戦没者が心静かに 事を考えると不安なこともあ いでしょうか。これから先の 平和であるということではな 安らかに眠ってくださり、 会員が増えないということは はありませんでした。そして、 人もなく、遺族が増えること います。 戦 が

アジア・太平洋戦争当時の証言・史料を募集

真庭市教育委員会では終戦70周年に寄せて、「真庭地域の戦前・戦中・戦後」をテーマに史料展を開催します。開催に向けて、市民の皆さんから当時の証言や手記、自宅に眠る戦争などに関する史料を募集します。 ご家庭で眠ったままの貴重な史料をお貸しください。

■募集対象

【手記·証言】

▶真庭市域の出身、または市域に関係された人の体験談や聞いた話など(電話での情報提供だけでも結構です。筆記が無理な人、また、特に重要と思われる場合は、担当者が取材に伺います)

【各種史料】

①戦前・戦中期の生活と世相に関するもの

▶街並み・風景写真、生活道具、ポスター、新聞、日記、戦時郵便、防空ずきん、松根油採取、配給・徴用、金属回収、 教科書、学用品、疎開、開拓団など

②軍隊や軍事に関するもの

▶徴兵検査、徴兵忌避、入営・除隊、蒜山の陸軍演習場、在郷軍人会、軍服・兵士の装備品、召集令状、千人針、寄せ書き、門札、慰問袋など

③戦後まもない時期の真庭に関するもの

▶玉音放送を聴いた当時のラジオ、墨塗り教科書、民主的な 戦後教科書、GHQ進駐、戦没者の慰霊など

④市民が戦後に残した手記や記録

▶当時の世相や体験をつづったものなど

※史料展は、11月8日印~29日印に北房振興局庁舎で 開催します。

※今回の募集では、史料の調査・確認・記録、または 展示借用までとなりますが、後日に史料集などの形で まとめ、保存・活用したいと考えています。



■問い合わせ・申し込み先 教育委員会生涯学習課(文化財グループ) 電話 7-42-1094 FAX 7-42-1416

戦争当時の引揚者と家族の人へ

税関では、終戦後外地から引き揚げてきた人が、税関などに預けられた通貨(紙幣)や 証券などをお返ししています。心当たりの人は気軽にお問い合わせください。

税関で返している保管物件

- ■外地からの引揚者が、上陸地(引揚港)の税関、海運局に預けた通貨(紙幣)、証券類など。
- ■帰国前に外地の集結地において在外公館や日本人自 治会などに預けた通貨(紙幣)、証券類のうち、その後 日本に送還されたもの。
- ※ 通貨・証券類:旧日本銀行券、郵便貯金簿、預金証書、生命保険証書など

返還の申し出・お問い合わせは、ご本人ばかりでなく、 ご家族の人でも結構です。

また、返還の請求には、お預かりした際の「保管証」か「預り証」が必要ですが、それらの書類がなくても、ご本人のものであることが確認できれば、お返しできる場合があります。



〒706-0011 玉野市宇野1丁目8番1号 神戸税関 宇野税関支署 TEL0863-31-5375

戦争を未来ある子どもたちへ語る

7月9日、久世中学校の平和学習の一環として、1年生を対象に平和学習講演会が行われました。講師は、学徒勤労動員で働きに出て、その後教師として戦後の貧しい時代の子どもたちを支えきた福島和子さんと、朝鮮北部(現在の北朝鮮)で生まれ育ち、小学4年生のときに戦禍の渦に巻き込まれ、大変つらい思いをしながら日本へ引き揚げられた吉永圭毅さん。お二人に戦争体験を語る理由を伺いました。

私の体験を 多くの人に伝えたい



福島和子さん(鍋屋)



当時の寄せ書きなどを見る生徒

体験者としての 責任だと思っています

本当は話したくなかったんで本当は話したくなかったんで、 理由は、 辛かった昔の記憶を思い出すからです。しかけ、 平成11年からこの講演をし、 平成11年からこの講演をした、 手が出てくるようにないないなくないことは、 イジメに関するたいことは、 イジメに関するたいことは、 イジメに関するたいことは、 イジメも戦争を体験で、 生の気持ちになって考えてほしいと思います。 で、 生の声でこれからも伝えで、 生の声でこれからも伝え



吉永圭毅さん(久世)



自作の地図を使い説明する吉永さん





久世中学校1年 **小林彩乃**さん

お二人のお話は、分かりやすくてとても 勉強になりました。福島さんの、学徒動員 で学生の時から働きに出られていた話や、 岡山空襲の紙芝居が印象的でした。吉永さんのお話も、住み慣れたところから戦争の ために追い出され、日本に帰ってくる。と に11カ月間もかかったということで、と も辛い思いをされたんだと感じました。 は、お母さんが食べるものを買うために、 血まみれになりながら金歯をとっていたと いうことが印象に残っています。 戦争は絶 対してはいけないと思います。



久世中学校1年 **蜂谷拓実**さん

今日、福島さんと吉永さんのお話を聞いて、戦争は怖いと思いました。特に印象に残っているのは、吉永さんが話された「引き」のことです。万引きはよくないことですが、戦時中は、生きるためにはしょうがなかったんじゃないかと思います。僕その時代に生まれていたら、もしかしたかもしれません。生きるためでもしていたかもしれません。生きるたいでもいたからも平和が続いてほしいと思います。戦争は絶対にしてはいけないと思いました。

さんと小林彩乃さんに聞きました。て、生徒たちは何を感じたのでしょうか。その感想を蜂谷拓実平和学習講演会で、実際に戦争を体験したお二人の話を聴い

戦争体験の語り~あの日を伝える~

久世中学校の平和学習講演会の講師として体験を話された、福島和子さんと吉永圭毅さんのお話を皆さんも聞いてみませんか。講演会では話せなかった壮絶な体験も語られます。ぜひ生の声で聞いてみませんか。 問生涯学習課 福井 TEL7-42-1094



- ■日時 8月30日(日)午後1時~
- ■場所 北房文化センター
- ■講演名・語り手 「戦争は絶対にいけん!」福島和子さん 「戦争難民から引き揚げ」吉永圭毅さん

戦時の慰問袋

PN 赤野太人さん(赤野)

私たち幼児3人を残し、激戦の地中国大陸で悪戦苦闘の父に、 出征兵士の家族から慰問袋を送ることになりました。慰問袋には、 家族写真、家族全員の手紙などを同封するので、小学 1 年生の私 も、習い覚えた拙い字で「蒋介石の首を取ってください」と手紙を 書きました。(小隊の兵士がこの文を見て笑い合ったそうです)

銃後の守りを託された母の細腕で、血のにじむ労苦で作った 60元余りの米と自家製のミソまでも供出し、米を作りながら配 給を受け、麦、芋、大根、雑穀の混じった粗食は空腹を満たす ことなく、何時も、ひもじい思いをしていました。学校のグラ ウンドは芋畑に変わり、野山の開墾や労働奉仕、竹やりの軍事 教練と本来の勉学は疎かとなり、すべてがお国のために「欲し がりません。勝つまでは」が合言葉になりました。真実の戦況 は報道統制で知らされず、常勝神国の虚偽が横行し、言論の自 由は弾圧された時代です。鉄兜に着弾し、首を負傷するも、九 死に一生を得て、終戦から1年後に帰還した父の姿は、かつて の面影は見る影もなく、やせ衰え、私は父を判別するのに暫し の時を要するのでした。戦後70年、戦争を知らない世代に移る中 で、多くの人命や財産を奪った悲惨な戦争の歴史を真摯に受け止 めて、平和、自由平等の尊さ大切さを今こそ再考の時と考えます。

い思いをぜひお読みください な体験をされています。 介します。 市民の皆さんからいただいたお手紙を紹 多くの人が、 皆さんの伝えた 戦争でさまざま

小椋蓉子さん(下湯原) 小椋蓉子さん(下湯原) 小椋蓉子さん(下湯原) います。 が、国際員の 敗戦を知らされないままレ

レイテ島に散った若き特攻調社から出た本を請ん

必ある若い

でした。私は

が年形

から20

帰還した父の話

土屋勝幹さん(上市瀬)

戦争の体験はなくあまり覚えていないが、戦争から怪我をし て帰ってきた父の事は、うすうすは覚えている。帰ってきた父 は農業一本で家族のために生きてきたように思う。怪我をした 体で農作業に励んでいた。中学生の頃、戦争の話をしてくれた。 父のいた部隊は45人で敵の攻撃をかわしながら、掘った穴に入 っていた。隊長の命令で敵をめがけて進んでいったとき、いち 早く進んで敵の玉を腕にうけて、しばらくは病院生活をしたと のこと。隊長が腕を切り落としてでも腕に残ってる玉を取るか と言ったので、持って帰ると言ったとのこと。仕事をしてやっ ぱりあのとき腕を切り落とさなくてよかったと話してくれた。 体が痩せて腕の傷が痛むと言っていたが、我慢強い父であった。 不自由な体であったが戦死した人の事を思うと、申し訳ないと 何度も言っていた。そんな父も97歳でこの世を去った。家庭を 破壊するような戦争はもう二度とない平和な日本でありたいと

叔父と戦争

稲岡雅子さん(上)

私が戦争を経験したのは、小学2年生の時でした。 通学途中B29が上 戦争という意味も分からず、 ったときには、防空頭巾をかぶり、溝に伏せ去るのを待 学校に行っても、芋作りをしたものです。 たある日は出征兵士を見送り、小旗を振りながら無事を祈った ものです。その中に私の叔父の長男と次男と出征していき 長男は航空兵、次男は海軍。長男は外地に行くからと、 親を九州に呼び出し、叔父の整骨院を帰ってきたら継ぐからと 固い握手を交わしたそうです。この一夜が最後の別れとなるこ とも知らず…。外地に行く前、故郷の上空を飛行機で旋回し、 に手紙を投下したのですが、去った後には小さな紙片が落ちて 外地に行き、航空兵として出撃 いただけだったそうです。 やむなく敵地に下り命を落とした くなった最中、長男に続き、次男も 飛行中に油切れとなり、 と報が届きました。叔父は、お国のためとはいえ、 昭和19年戦渦も厳し 人も…といつも悲しんでいました。

と聞いております。戦地で散った父の事を思わずにはいらら は神戸市で生まれ、4歳の頃太平洋戦争が初まり、昭和20年 を次の世代に伝えることが、責務ではないかと思います。 ています。私たちは戦争体験者である以上、 敗戦から70年になりますが、その戦争の悲劇も次第に風化し 終戦直後、父が前年フィリピン島沖で戦死の報が届いた 今年は戦後70年と報道されることが多くあります。 母が見送ったそうです。それが最後の別れだったそうで 昭和19年に出征間もなく広島の呉軍港から潜水艦で出 今の日本の平和を忘れないで欲しいです。 神戸は大空襲に見舞われました。父は海軍に召集さ 戦争という悲劇

大の男二人の号泣のみでした。こんな小さな残酷物語を無数に は僕が一生苦しむことになる」と言って手を挙げません。後は でN君と再会。彼は52年前の出来事をしっかりと覚えていまし N君が岩手県で健在していることが判明。その2年後に盛岡市 謝罪をする間もなく、日本人社会は崩壊。それは永く心の中の トゲとして私を苦しめたのです。奇しくも50年後の7月12日、 告げました。とんでもないデマを飛ばす非国民めと怒りを爆発 6年生でした。4年生のN君がやってきて「日本が負けた」と た。当時日本領であった台湾の、郡内唯一の内地人国民学校の 緑の美しい母校の校庭の隅で、級友と軍歌などを歌っていまし 殴ってくれと懇願する私にN君は「あなたを叩いたら今度 子どもも背負った心の傷 終戦の日のあの暑い昼下がり。機関銃部隊本部に化けていた、 上島敬一さん(蒜山上長田) 鉄拳制裁。N君は泣きながら逃げていきました。誤解の

一人の戦死

田和寿美さん(上河内)

を忘れないで

家に帰って青年学校の教官を勤め、三兄は現役で軍隊にいました。姉も局 いました。その頃、長兄は父母を助け農業に、次兄は現役の務めが終わって 空機の部品を作る工場に行くように言われ、クラスでア・8人がお国のた に勤めており、私は青年学校生でしたが、役場から、女子挺身隊として航 めにと工場でハンマーとノギスを持って働いていました。戦争には必ず 勝つと思っていましたが、次兄に招集命令が届き、再び岡山連隊に入隊 しました。これが優しい大好きな兄との別れだったのです。次第に戦禍 は激しくなっていきました。私が工場でハンマーを振っていると、事務所 いことは分りませんでしたが、国内もいろいろと物騒なことになって とでした。辛くて辛くて、涙が溢れ、歩くにも足元がおぼつかなく辛い辛 に呼ばれました。二人の兄の戦死の知らせが家から届き、すぐ帰れとのこ い。今までにない肉親との別れを知りました。お国のためだと頭の中では 恨みました。兄二人を偲ぶ私の気持ちをどうぞお汲み取りください。 覚悟していましたが、とても辛い日を迎えました。その時ばかりは戦争を 寅婆さん(別所)